

# 孫の手通信



第21号

平成24年2月29日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

## はじめに

一宮町長 玉川 孫一郎  
今回は、駅東口の開設、放射能の汚染対策、笛吹市との災害応援協定の締結についてお話しします。

## 皆さまのご協力で 駅東口の早期開設を

エレベーターとスロープが完成しました。

昨年末、上総一ノ宮駅にエレベーターとスロープが完成し、1月30日、駅東口の駅前広場で完成式典が開催されました。

この施設は、身障者や高齢者の方でも安心して駅を利用できるよう、国と町とJRが、それぞれ経費の三分の一を負担して設置したものです。車椅子でもスロープとエレベーターを使い乗車できるようになりました。足腰の弱い高齢の方や幼い子ども連れの方などにも大変喜ばれています。

式典には、森衆院議員、金子衆院議員、酒井県議会議

員をはじめ多数の来賓の方々に出席いただきましたが、私は主催者挨拶の中で「さあ、いよいよ次は駅東口の開設です。町は早期の開設に向け全力を尽くしますので、本日お集まりの皆さまには特段のお力添えを。」と申し上げました。

### 東口開設へ大きく前進

東口駅前広場は、平成4年に舞台土地区画整理事業で整備されました。当初は、蘇我駅のような橋上駅を考えていましたが、多額の建設費を町が負担できないという理由で断念、改札口のない駅前広場という状態が今日まで続いています。

私は、4年前の町長選挙で東口開設を公約に掲げ、就任後、駅を利用する いすみ市、睦沢町、長生村、白子町にもご協力をいただき、跨線橋（こせんきょう）を伸ばしてスイカ改札機を設置する東口開設をJRに要望してきました。その結果、昨年6月、ようやく協議のテーブルにつくことができました。

町が請願して設置するという事で、建設費や維持管理費は町が負担します。駅を整備する町の基金は現在6千万円あまり、一日も早く東口を開設するためには、設備の内容についてさらに検討を重ね工事費の縮減を図らねばなりません。それでも不足する財源は、町内で活動しておられる企業様の寄付金と、駅を利用していただいている方からのふるさと応援寄付金（ふるさと納税）を期待しています。

### ふるさと納税とは

ふるさと納税は、自ら選んだ自治体に対して2千円を超える寄付をすると、寄付金のうち2千円を超える部分について、その年の所得税と翌年の住民税あわせてほぼ全額が控除される制度です。（個人住民税所得割りのおおむね一割が上限となりますが、具体的な金額については担当者にお問い合わせください。）

つまり、納税者が税金の納付先や使い道を指定できる

画期的な制度なのです。昨年は町内、町外あわせて41名の方から222万円の寄付をいただいております。

一宮町では、1万円以上寄付された方に本人の希望によりメロン、梨、トマト、お酒などの特産品をお礼にお贈りしています。町にお住まいの方が一宮町に寄付する場合も対象となります。

町民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

## 放射能の汚染対策

東北地方太平洋沖地震による津波で福島第一原子力発電所が破損し、放射性物質が流出して一年が過ぎようとしています。3・11以降、町では、放射能汚染から町民の皆さまを守るために様々な取り組みを行ってきました。

4月20日、風評被害に惑わされず、原発事故の影響について正しい知識を得ていただくために財団法人海洋生物環境研究所長・原猛也先生を講師に講演会を開催しました。

5月には、他の市町村に先駆けて一宮海岸の海水の検査を実施し安全を確認しました。これはサーファアの皆さんが安心してサーフィンを楽しめるよう、また夏の海水浴場の開設を迎えることから町が独自に実施したものです。

また5月以降、県と協力して定期的に米、トマトなどの農産物の検査を行ってきました。8月からは小学校と保育所や公園などの空間放射線量の測定を行っています。いずれも国が定めた安全基準を超えるものではありませんでした。

そして12月からは、保護者の要望に応じて保育所・小中学校の給食の献立表に食材の産地を掲載しております。さらに本年の1月4日には、関係各課の連携を

（裏面に続く）

強化するために役場に一宮町放射能汚染対策本部を設置し、2月15日からは町民の皆さまが、身近な生活環境の放射線量を自ら把握できるよう、放射線測定器を町で購入し、無料で希望者への貸し出しを始めています。これからも町民の皆さまの不安を払拭するよう全力で取り組んでまいります。

## 山梨県笛吹市と 災害応援協定を締結

2月15日一宮町は山梨県笛吹市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。笛吹市役所で行われた調印式には、一宮町を代表して私と秦議会議長が出席しました。

現在、町は可能な限りの防災対策を進め、「災害に強い、安心して暮らせる一宮」の実現に努めております。これまでも災害に関する各種協定を結んできましたが、全て県内であり、東日本大震災のような大規模災害に対する備えを強化する必要性に迫られました。そこで友好町である笛吹市に相互応援協定の締結について申し入れて、実現されたものです。災害時に被災者の受け入れや職員の派遣、物資の提供を行うことなどが約束されています。

協定締結に際しご尽力いただいた荻野正直市長はじめ関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

友好町である山梨県一宮町が、合併により笛吹市となつた平成16年に改めて友好交流の覚書を交わし、引き続き現在まで尚武会(剣道)を中心に、青少年の交流が行われています。今回の協定締結をひとつの契機に、さらに一宮町と笛吹市の交流を深めてまいりたいと思っております。

## 最近の新聞より

平成24年2月10日 千葉日報

### 放射線測定器 無料貸し出し

15日から一宮町測定器の無料貸し出しを行う。町内在住者が対象。13日からの予約を受け付け、申し込みは町役場西庁舎の都市環境課、申請書のほか身分証明書、運転免許証、保険証などの提示が必要。貸し出しは月曜日から金曜日(初日は年末年始を除く)までの1日単位で、貸し出し時間は午前9時から午後4時まで。問い合わせは都市環境課(0475)(4)1430。

平成24年2月16日 山梨・日日新聞

### 相互応援へ協定締結

笛吹市が千葉・一宮町と



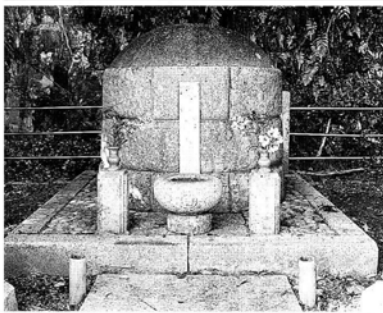
笛吹市は15日、旧一宮町時代にあり、東日本大震災では津波で床上浸水などの被害を受けた。県民が被災した場を想定して、1982年から友好協定を結んでいた旧一宮町のある笛吹市と災害協定を打影した。同日は一宮町の玉川孫一郎町長が市役所を訪問。荻野正直市長と玉川町長が協定書に署名した。玉川町長は「災害に対する備えを強化したかった。快く申し入れを受け入れていただき感謝している」とあいさつ。荻野市長は「お互いに顔の見える支援が大切と感じている。協力していきたい」と述べた。

## 加納久宜の業績顕彰

一宮 最後の藩主から町長に



一宮藩最後の藩主であり後の町長、加納久宜公  
一宮町教委提供



一宮町の城山公園に祭られている加納久宜公の墓

## 25日 墓前祭など記念行事

今年の上総国一宮藩最後の藩主、加納久宜(1848〜1919)が晩年、地元一宮町に戻り、町長に就任して100年を迎える。政治、教育、地方自治など幅広い分野で活躍した久宜の業績を顕彰する「加納久宜研究会」(代表・林一雄)が毎日前日の25日記念行事を計画している。墓前祭、シンポジウムなどを行い、「久宜公の遺徳をしのぶとともに今後のまちづくりに生かす取り組み」とう。(取材 村上建二)

5年余、耕地の基盤整備や女学校開校のほか、海水浴場や別荘地の整備など多くの事業を推進。いまも町を見下ろす城山公園の一角に眠っている。25日の墓前祭は午前11時から町中央公1時15分から町中央公民館大会議室で「加納さんから何を学ぶか」をテーマにシンポジウムが開かれる。参加費無料(資料代300円)。問い合わせは林代表(070)64061411。

平成24年1月30日 朝日新聞

### 土塁6.5メートルに補強

一宮町 津波対策で説明会



津波対策の住民説明会で質問に答える玉川孫一郎町長(左)と一宮町一宮の中央公民館

東日本大震災の津波被害を受けた九十九里浜の土塁を整備に關して、一宮町は29日、県が土塁をさらに高くしようとしている計画の説明会を開いた。約120人の住民が参加し、玉川孫一郎町長は「住民の意見を聞き、県に伝えて増強計画に反映したい」とあいさつした。千葉東沿岸海岸保全基本計画検討委員会が昨年12月に開催され、現在の4.5〜5.5メートルの高さを5.5〜6.5メートルに補強することが検討されている。一宮町では、同町一宮の海岸から同町東浪見の海岸までを6.5メートルに、その他は6メートルにする予定だ。同委員会の第2回会合は2月中旬の予定。住民からは「土塁をもっと高くできないか」「植林もすべきだ」などの意見が出た。